関西自然保護機構会誌 *23*（*2*）：*179－181*，　*2001*

原　著

「世界遺産・春日山原始林」植物編・草本の現状

瀬　戸　　剛

Present situation of herbs and grasses in Kasugayama forest reserve, the World Heritage. Ko Seto.

所産植物目録について

地域の植物相の研究はまず現地調査を季節をちがえて何度も行い，生植物を観察すると共に全種について採集して標本を製作し，正確な同定をして，標本にもとづいた所産植物の目録をつくることが必要である。おしば標本は植物の立体的な構成や色彩の特徴が失われる欠点はあるが，長く保存することができて，空間，時間の隔たりを越えて他の地域の植物との比較，何年も前に採集された標本との比較ができる利点がある。持っている情報量は映像とは比較にならないほど大きい。植物は種類が多く，一人の研究者が多数の種の同定をしなければならない。いかに努力しても，同定の誤りを皆無にはできない。後日疑義が生じたとき，標本が保存されていれば，再検して誤りがあれば正すことができる。後進による再検討によって目録はより正確なものになっていく。また学問の進歩によって，分類の方法や形質のとらえ方が変わって，その当時としては正しく同定されていたものでも，時代と共に訂正が必要となることもしばしば起る。標本が保存されていればこれに対応することができるが，標本が残されていないと疑問はいつまでも疑問として残り解決できない。このように標本は植物相の研究に不可欠のものである。

春日山の植物目録は過去に何度も発表されている（小清水卓二 1943，小清水ほか 1971，小清水ほか 1975 など）が，いずれも標本が採集されなかったり，採集されても保存されておらず，標本のうらづけを欠いている。春日山は古くから植物の宝庫として有名で一般には所産植物はすべてわかっているように思われているが，これまでの目録には多くの疑問種が含まれていて，植物相の解析や将来に向かって植物相の変化を研究する出発点として利用することができない。標本にもとづく正確な植物目録をつくることが急務である。

草本植物の現状

春日山は外観は樹木がうっそうと茂り，植物相はよく保存されているように見えるが，所産植物，ことに草本の種数は近年はげしく減少し，植物相の多様性は著しく損なわれている。春日山は採集が禁止されているのはもちろん，林内への立ち入りも厳しく禁じられているので，私のような一介の市民は周遊道路とその両側の林内をのぞいて観察しているだけであるが，林床の草本はほとんど皆無といってよい状態で，わずかに林床が緑色にみえるところはその大部分がシカの食べないイワヒメワラビとコバノイシカグマの群落である。このような事態をもたらした直接の原因はシカによるもので，それについてはこのシリーズの他の多くの報文で取り扱われているのでそれをごらんいただきたい。

関西自然保護機構業績　第 296 号

矮小化植物

春日山には屋久島の高地に多くみられるような矮小化した植物が生育している。天然記念物ナギ林内で屋久島から記載されたコケトウバナと全く同じ形態のものが1950年8月に採集され，同時に同じ場所にイヌトウバナ，ヒメバライチゴ，ヒメアギスミレ，ヒメキンミズヒキ，アキノタムラソウなどが矮小型となって生えていることが報告されている（中井1951）。春日山ではこのような矮性化した植物は上記以外にチャボチヂミザサ，ハエドクソウ（高さ数cmで花をつけ，ミヤマタニタデのような姿となる），ヒメウワバミソウ，ヒメヨツバムグラ，ガンクビソウ，ヒメガンクビソウ，ノチドメ（地表に密着しチドメグサのような姿となる），ミゾソバなどがあり，ナギ林のみならず奈良公園から春日山にわたってシカの摂食活動の盛んな地域に広く生育している。これらの植物は矮小型となることでシカの食害を免れ生き残っている。

春日山にこのような矮小化した植物が出現した原因と過程は，解明されていないが，広島県宮島や宮城県金華山などシカの高い密度のポピュレーションがながく続いて維持されてきたところでもみられることから，最も直接的な原因はシカの永年持続した過重なグレイジングの影響と想像される。

屋久島の矮小植物には移植して本州の都市で栽培しても矮小型で変化しないものと，普通の大きさに変ってしまうものがある。春日山の矮小植物についての実験はまだ行っていないが，両方のものがあって，たとえば生育地での観察からコケトウバナは前者，イヌトウバナは後者であると予想される。

春日山植物目録（小清水ほか1971，1975）に追加する植物

ミチバタガラシ（アブラナ科），カスミザクラ（バラ科），ミヤコイバラ（バラ科），シラゲヒメジソ（シソ科），ホナガタツナミソウ（シソ科），オオバナニガナ（ハナニガナ）（キク科），コヤブラン（ユリ科），イトイヌノヒゲ（ホシクサ科），ミゾイチゴツナギ（イネ科），カタスゲ（カヤツリグサ科），センダイスゲ（カヤツリグサ科）。

スゲ属など

今回のシンポジウムの直前の2001年9月5日に，秋に出穂するナキリスゲのなかまに注意して春日山周遊道路を調査した結果，大井（1936）に春日山産が，報告されている稀産種ジングウスゲとセンダイスゲが個体数は少ないが現在も生存していることがわかった。また2000年5月の調査によって，同時に大井によって，春日山産が報告されたカタスゲも生存していることがわかった。ちなみに環境庁（2000）レッドデーターブックではジングウスゲは絶滅危惧Ⅱ類に，レッドデーターブック近畿研究会（2001）ではカタスゲは絶滅危惧種Aに，ジングウスゲとセンダイスゲは準絶滅危惧種に指定されている。

引用文献

環境庁自然保護局野生生物課［編］. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデーターブック—8植物Ⅰ（維管束植物）. 600pp. （財）自然環境研究センター. 東京.

小清水卓二. 1943. 大和の名勝と天然記念物. 166－177. 天理時報社. 天理，奈良.

——・岩田重夫. 1971. 春日山の植物目録　維管

束植物．奈良市史自然編．147－172．奈良市．奈良．
――・平田善文・岩田重夫．1975．春日山とその周辺の植物目録（シダ植物・種子植物）．特別天然記念物春日山原始林の緊急調査報告（概報），49－73．奈良県教育委員会．奈良．
中井源．1951．コケトウバナ大和春日山に産す．植物分類，地理 14：80．京都．
Ohwi,J. 1936. Cyperaceae Japonicae I . Mem. Coll. Sci., Kyoto Imp. Univ., Ser. B. 11 (5) : 229－530. Kyoto.
レッドデーターブック近畿研究会．2001．改訂・近畿地方の保護上重要な植物―レッドデーターブック近畿 2001－，164pp.（財）平岡環境科学研究所．川崎．